

通し番号	5219
------	------

分類番号	R06-14-12-01
------	--------------

水稻奨励品種‘にじのきらめき’の栽培特性を明らかにしました	
[要約] 水稻早生品種‘にじのきらめき’は、県奨励品種‘キヌヒカリ’と比較して、出穂期は2日程度遅く、成熟期は4日程度遅い早生品種である。玄米重は6月上旬移植で529kg/10a、6月中旬移植で554kg/10aとなる。玄米は白未熟粒が少なく、食味は‘キヌヒカリ’と同等である。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

県内で栽培されている水稻奨励品種‘キヌヒカリ’は、穂発芽率が高く、近年の高温で白未熟粒の発生や充実不足による検査等級の低下、収量が低いことが問題となっている。そこで、‘キヌヒカリ’に代わる早生品種として高温耐性に優れる‘にじのきらめき’の栽培特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 ‘にじのきらめき’は、6月上・中旬移植ともに‘キヌヒカリ’と比較して出穂期は2日、成熟期は4日程度遅い。穂長はやや長い、稈長は短く、倒伏しにくい。また、穂発芽率が低い(表1、図1)。
- 2 ‘にじのきらめき’は、6月上・中旬移植ともに‘キヌヒカリ’と比較して穂数が多く、玄米千粒重が重くなる傾向があり、玄米重は6月上旬移植で529kg/10a、6月中旬移植で554kg/10aになる(表2)。
- 3 ‘にじのきらめき’は、‘キヌヒカリ’と比較して整粒歩合が同等または高く、高温で発生しやすい白未熟粒歩合が近年の生育環境下においても‘キヌヒカリ’より低い傾向である。食味に影響するタンパク質含有率は、‘キヌヒカリ’と比較して低い(表3、図2)。
- 4 ‘にじのきらめき’の食味は、‘キヌヒカリ’と同等である(データ省略)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 ‘にじのきらめき’は、農研機構中央農業総合研究センター北陸研究センター(現農研機構中央農業研究センター北陸研究拠点)が‘なつほのか’と‘北陸223号’の交配により育成し、令和4年に品種登録された。
- 2 基肥 N:P₂O₅:K₂O=4.0:6.0:6.0 kg/10a、追肥 N:P₂O₅:K₂O=2.0:0.0:2.0 kg/10a の肥培管理による結果である。

[具体的データ]

表1 生育特性(2021~2024年の平均値)

移植時期	品種	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	倒伏 程度	穂発芽率 ^z (%)
6月上旬	にじのきらめき	8. 9	9. 18	75. 6	21. 2	0. 0	7. 4
	キヌヒカリ	8. 7	9. 14	84. 5	19. 0	0. 3	57. 4
t検定 ^y	-	-	-	*	*	n. s.	-
6月中旬	にじのきらめき	8. 16	9. 25	73. 3	20. 4	0. 0	-
	キヌヒカリ	8. 14	9. 21	82. 6	19. 0	0. 3	-
t検定 ^y	-	-	-	*	*	n. s.	-

^z 穂発芽率は2023年度のみ調査。^y t検定により、*は5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なしを示す。

表2 収量特性(2021~2024年の平均値)

移植時期	品種	玄米重 ^z (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	登熟 歩合 (%)	一穂 粒数	玄米 千粒重 ^z (g)
6月上旬	にじのきらめき	529	361	75. 5	84	23. 5
	キヌヒカリ	482	334	76. 5	72	22. 2
t検定 ^y	-	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.
6月中旬	にじのきらめき	554	364	76. 1	81	23. 2
	キヌヒカリ	479	344	72. 9	81	20. 7
t検定 ^y	-	*	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

^z 篩目1.8mmで調整した玄米を水分含有率15%に換算した。

^y t検定により、*は5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なしを示す。百分率はアークサイン変換し、統計処理を行った。

表3 品質特性(2021年~2024年の平均値)

移植時期	品種	玄米 外観 品質 ^z	整粒 歩合 ^y (%)	白未熟粒 歩合 ^{yx} (%)	タンパク質 含有率 ^w (%)
6月上旬	にじのきらめき	5. 4	80. 4	4. 5	6. 3
	キヌヒカリ	5. 5	77. 9	7. 0	7. 1
t検定 ^y	-	n. s.	n. s.	n. s.	*
6月中旬	にじのきらめき	5. 5	78. 7	3. 5	6. 4
	キヌヒカリ	5. 2	79. 2	6. 1	6. 9
t検定 ^y	-	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

^z 達観調査により1(上上)~9(下下)。^y ケット社製RN-700を使用。

^x 白未熟粒歩合は2022~2024年度の平均値。^w 静岡製機社製MT-3500を使用。

^y t検定により、*は5%水準で有意差あり、n. s. は有意差なしを示す。百分率はアークサイン変換し、統計処理を行った。



図1 成熟期の草姿
(左: キヌヒカリ、右: にじのきらめき)



図2 玄米の外観比較
(左: キヌヒカリ、右: にじのきらめき)

[資料名] 令和3~6年度試験研究成績書(普通作)

[研究課題名] 水稻奨励品種決定調査事業

[研究期間] 2021(令和3)年度~2024(令和6)年度

[研究者担当名] 辻本学杜、岡野英明、横田秀海

[協力・分担関係]